

学年	3	科目 分類	C言語基礎演習	演習	前期	学習教育目 標	担当	出川 智啓
学科	D		Basic Practice of C Language	必修	1履修単位	2		DEGAWA Tomohiro
概 要	プログラミングの基礎概念を理解し、初歩的なCプログラミング技術を習得する。PCでの演習を併用し、実践的な応用力を身に付ける。授業ごとに、適切な量の演習課題を出し、課題の提出を課する。							
科目目標 (到達目標)	(1) ポインタの概念を理解して、ポインタを用いたデータ参照ができること。 (2) 関数の概念を理解して、ユーザー関数を作成しデータの引渡しができること。 (3) 構造体の概念を理解して、異なる型のデータを一つの集合体として取り扱うことができること。 (4) データ型および型変換について理解し、異なる型のデータを含んだ計算ができること。 (5) C言語の基礎的なプログラミングを習得し、数値演算関数を用いて、初歩的な数値計算(数値的な微分、積分等)ができること。							
教科書 器材等	「入門ソフトウェアシリーズ1 C言語」河西 朝雄 著(ナツメ社)							
評価の基準と 方法	前期中間試験40%、前期期末試験40%、課題レポート20%として評価する。60%以上を合格とする。							
関連科目	プログラミング入門							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回	×	C言語の基本書式(基本書式、変数、制御構造、配列)、コンパイルオプション						
第2回		関数1 : 関数とは、局所変数、値による呼び出し						
第3回		ポインタ1 : ポインタ変数の宣言とデータ参照、ポインタと文字列						
第4回		ポインタ2 : ポインタと一次元配列、ポインタによる配列表現						
第5回		関数2 : 参照による呼び出し、一次元配列を渡す、関数プロトタイプ						
第6回		構造体1 : 構造体とは、構造体配列						
第7回		構造体2 : 構造体の一括代入、構造体へのポインタ						
第8回		データ型1 : データ型、符号付き数と符号なし数						
第9回		前期中間試験						
第10回		データ型2 : 型変換とキャスト、ゼロ拡張と符号拡張						
第11回		記憶クラス : 記憶クラス、通用範囲						
第12回		変数と初期化 : 静的変数、外部変数、初期化						
第13回		プリ・プロセッサ : プリ・プロセッサとは、マクロ(記号定数)、引数付きマクロ						
第14回		マクロ : マクロと関数、マクロの副作用、数値演算関数						
第15回		ファイル処理 : ファイル処理関数、書式付きファイル入出力						
第16回	×	前期期末試験 試験の返却および解説、授業アンケート						
オフィスアワー	前期火曜の16:30~17:00、試験前1週間は曜日を問わない。							
授業アンケート への対応	丁寧な板書を心がける。課題を期限内に提出できない学生には、個別に質問へ対応する。							
備 考	授業に関する質問は、degawa@numazu-ct.ac.jpへのメールでも受け付ける。							
更新履歴	20130325 新規							